様式Ｃ-7-2

自己評価報告書

平成２１年５月２５日現在

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：２００６年～２００９年
課題番号：１８２０２０１８
研究課題名（和文）　江戸幕府・朝廷・諸藩の編年史・編纂史料集の史料学的研究

研究課題名（英文）　Research of Chronicles edited by Edo-Bakufu, Court(Cyotei), and feodaries (Syo-Han)

研究代表者
山本　博文（YAMAMOTO　HIROFUMI）
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号:80158302

研究分野：日本史
科研費の分科・細目：
キーワード：江戸幕府、江戸幕府財政、朝幕関係、長崎貿易、編年史料、日本財政経済史料、天皇皇族実録、オランダ商館長日記

１．研究計画の概要

本研究「江戸幕府・朝廷・諸藩の編年史・編纂史料集の史料学的研究」は、近世及び近代に編纂された編年史及び編纂史料集を網羅的に蒐集し、そのうち重要なものについては史料学的に研究し、その史料の位置づけを確定させることを目的とする。近世及び近代に成立した編年史及び編年史料集の史料学的研究は、現在、東京大学史料編纂所において進められている「近世編年データベース」の基礎になるとともに、当該データベースをより正確なものとし、さらに活用するために不可欠なものである。「近世編年データベース」は、幕府、朝廷、幕藩関係、朝幕関係、幕府外交、幕府財政、都市政策などを主要な柱とし、さまざまな史料から史実を抽出してデータベース化をはかることを目的としているが、当面は、近世・近代に編纂された編年史料集のデータベース化が中心になっている。こうした作業を進めていく上で重要なことは、史料のデータベース化とともに、素材となる史料集自体の史料学的研究が不可欠となること、さらにより多くの編年史・編年史料集を蒐集する必要があることである。こうした作業を通して、「近世編年データベース」はより網羅的かつ信頼性の高いものとなる。また、個々に作成したデータベースを統合することによって、近世の政治構造と諸政策を総合的に分析することができるようになる。

２．研究の進捗状況

大蔵省編纂の『日本財政経済史料』の各項目を、所収史料にもとづいて綱文に直し、それをデータベース化した編年史料集として研究に活用する作業を完成させた。本史料集の史料学的特質について、本史料集に所収されている諸史料を、特に『向山誠斎雑記』との比較を中心に検討している。

次に江戸時代の朝幕関係史については、宮内庁編纂の『天皇皇族実録』の綱文をデータベース化し、現在は宮内庁書陵部の研究者と協議の上、綱文の訂正作業を進めている。そして『天皇皇族実録』の編纂過程については、研究分担者の松澤克行が宮内庁書陵部などに所蔵されている諸史料と対象して検討中である。

江戸幕府の江戸市政については、東京市時代に編纂された『東京市史稿』の「市街編」・「皇城編」・「遊園編」・「宗教編」・「変災編」のデータベース化を完成させた。史料学的検討は、連携研究者の杉森玲子が検討している。諸藩の編纂史料では、連携研究者の松本良太と及川亘が山口県文書館所蔵の『諸事小々控』と『遠近物』について検討している。

対外関係については、連携研究者の木村直樹が江戸幕府編纂の『通航一覧』所収史料を長崎県立図書館所在の史料と対照研究している。

外国史料関係では、研究分担者の松方冬子が、現在日本語訳のない『オランダ商館長日記』の一七世紀後半の部分の日本語訳を進めている。この作業は、近世対外関係史の基礎史料である『オランダ商館長日記』を、多くの研究者に活用してもらうためにも重要な意味を持っている。また、『オランダ商館日記』原文の欄外註をまとめた「マルヒナリア」

についても、編纂者であるライデン大学のブリュッセイ教授の許可を得て日本語役を進めている。

また、ポルトガル所在の日本関係史料の調査も進めている。ポルト市立図書館、およびエヴォラ市立図書館では、日本関係史料の調査を行い、釈文を作成中である。

３．現在までの達成度

当初の計画については、おおむね計画通り研究を進行している。『日本財政経済史料』・『東京市史稿』市街編については、東京大学史料編纂所のデータ・ベース「近世編年史料データ・ベース」に搭載し、公開している。また、『天皇皇族実録』については、同様の公開について、現在宮内庁書陵部と交渉中である。

４．今後の研究の推進方策

『天皇皇族実録』および『東京市史稿』皇城編・遊園編・宗教編・変災編・橋梁編・港湾編について、「近世編年データベース」で公開する。また、それぞれの史料学的研究を反映した解題を作成する予定である。また、それぞれの編纂史料の特質について、研究代表者・研究分担者・連携研究者によって研究した成果を刊行物にして学界の共有財産とする予定である。

５．代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１２件）

①松澤克行「「天皇皇族実録」の編修事業について」『史境』５３号、２００６年、１～１５頁、査読有。②松澤克行「近世の天皇と学芸－「禁中并公家中諸法度」第一条に関連して－」国立歴史民俗博物館編『和歌と貴族の世界』塙書房、２００７年、２０９～２２０頁、査読無。③杉本史子「十八世紀、秀吉への謀反を演じるということ－並木正三「三千世界商売往来」と近世社会」藤田達生編『近世成立期の大規模戦争　戦場論下』岩田書院、２００６、３３７～３６４頁、査読無。④山口和夫「近世の朝廷・幕府体制と天皇・院・摂家」大津透編『史学会シンポジウム叢書　王権を考える　前近代日本の天皇と権力』山川出版社、２００６年、２１９～２５０頁、査読無。⑤松方冬子「１８５３（嘉永６）年の別段風説書蘭文テキスト」『東京大学史料編纂所研究紀要』１８号、２００７年、１～１７頁、査読無。⑥小宮小代良「大河内松平家本『江戸幕府日記』の引用日記と成立時期」『日本歴史』７１６号、２００７年、１１８～１２３頁、査読有。⑦松澤克之「仙叟とその時代－転換期としての寛文年代」『裏千家今日庵歴代仙叟宗室』淡交社、２００８年、４～８頁、査読無。⑧佐藤孝之「上州における伊奈忠次の年貢割付状」『近世史藁』３号、２００７年２７～２９頁、査読無。⑨佐藤孝之「上州中領における御巣鷹山と山林政策の変遷（上）」『徳川林政史研究紀要』４２号、２００８年、４０～６７頁、査読無。⑩山口和夫「近世の目録に記された屏風について‐蜂須賀家文書「御櫓古帳」の作品・用途・管理の事例紹介‐」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』４１号、２００８年１０～１１頁、査読無。⑪松方冬子「近世後期『長崎口』からの『西洋近代』情報・知識の受容と翻訳」『歴史学研究』８４６号、２００８年、６８～７６頁、査読無。⑫山口和夫「江戸時代「洛中洛外図屏風」の景観・製作年代についての一考察」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』４３号、２００８年、５～９頁、査読無。

〔学会発表〕（計１件）

松方冬子「近世後期『長崎口』からの『西洋近代』情報・知識の受容と翻訳」歴史学研究会大会・近世史部会、２００８年５月１８日（早稲田大学）。

〔図書〕（計４件）

①山本博文『日本史の一級史料』光文社、２００６年、１～２２５頁。②『大奥学事始め』日本放送協会、２００８年、１～２５６頁。③松方冬子『オランダ風説書と近世日本』東京大学出版会、２００７年、１～３０８頁。④『江戸の組織人』新潮社、２００８年、１～３００頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕ホームページ

http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller。２００８年度徳川賞受賞（松方冬子『オランダ風説書と近世日本』）。